



速報新聞

キマグレ

発行所
彦根東高等学校

新聞部
彦根市金亀町4番7号

出会いとつながり の中で輝く「いのちの可能性」

▶スライドを用いて話される口分田さん



第1回図書館ゼミ開催

7月12日に本校図書館で第1回図書館ゼミが開催された。口分田政夫さんを講師として招き「動けない、食べられない、話せない」、でも出会いとつながりの中で輝く「いのちの可能性」についてー重症心身障がいという生き方ーと題して講演が行われた。口分田さんはびわこ学園医療福祉センター草津の施設長を務められている。

今回の図書館ゼミは重症心身障がい者のいのちのあり方と、障がい者福祉の先駆けである糸賀一雄さんをテーマに進行し、生徒は写真や動画を見たり、実際の症例の話や聞くことで重症心身障がい者のいのちのあり方についての理解を深めた。

口分田さんは講演中にいくつか生徒に向けて質問され、生徒は周囲の人と意見を交わ

◀熱心に話を聞く生徒



した。「『いのち』とは何ですか」や「あなたは障がい者の赤ちゃんと生まれたとき、どのような声をかけますか」などの難しい内容の質問もあったが、生徒には自分なりの答えを導き出そうと真剣に考える様子が見られた。

口分田さんは実際の例を挙げ「動いたり話すことができない人でも感情の変化により心拍数が変化したり、湿疹が出たりする。これらは十分な会話であり、これらのことを通して人との関わりを持つことができる」と説明され「重症心身障がい者は『人格はどこにあるのか』や『何かを生産しているのか』などの疑問を持垂れることが多い。しかし人とのつながりの中で人格を形成することができるし、困難ななかで生きようとして

いる姿そのものが生産だ」と指摘された。口分田さんは障がい者と関わることについて「重い障がいのある人たちは、周囲の人たちとの出会いや良い環境のなかで、一人ひとりが潜在的に持っていた可能性を実現する。同時に周囲の人たちも、その可能性を引き出すお手伝いをする事で自分の可能性も引き出されていくことを自覚する。そして互いの喜びが引き出されてくる」と熱意を見せられた。

最後に高校生へ向けて「自分とは違う体の有り様の人たちと出会い、その人たちが感じている世界を知っていくことは大きな意味を持つてくる。私は大学一年生のときのボランティア経験が今の障がい者の医療福祉の仕事につながるきっかけとなった。障がい者と関わるボランティアはそのための良い経験となると思う」と呼びかけられた。そして目指している社会について「多様な存在がお互いに可能性を引き出しあう関係で存在する社会が重要だ。多様な存在がその可能性を引き出しあう他者決定や他者実現のまなざしのなかでの自己実現が尊重される社会になってほしい」と望まれた。